

日常生活と習慣 - 1

アメリカは基本的に合理主義国家であり、したがってアメリカ人は不合理な事は随時修正し、公平且つ平等な権利を常に要求する。しかし最近では日本同様、市民としての義務を無視する傾向になって来ている。個人の自由は保障されているが、初の黒人大統領が誕生したとは言え、暗黙の人種差別も南部諸州では未だ強く潜在している。しかし、国体を維持する為には不合理な少数派市民擁護法 (Affirmative Action Laws) なる法律もあり、少数民族を優遇している。アメリカを語る書物は多い。しかし深いアメリカ、真のアメリカ人を知る為には少なくとも 20 年は複数の州に住み、教会行事を含めた多くのイベントに参加し、現地人と友好的且つ自然な交際を持ち、そして自分の子供を公立学校を卒業させなくては多くを語れない。又、長期間にわたって外地に住んでみて初めて日本の長所・短所もおのずと見えて来るものである。

アメリカ人は現金を持って歩かない。したがってそれに代行するクレジットカードが氾濫している。又、個人小切手が手軽に使えるので 50 ドル (4,500 円) 以上の大きな買い物は小切手で支払うかクレジットカードで支払うのが通常である。私は長崎屋でヨボヨボのお婆ちゃんが数枚の一万円札を財布から取り出して買い物をしている姿を見てビックリした。ちなみに ATM では引き出せるキャッシュには制限があり、一回にせいぜい 200 ドル (18,000 円) 止まり。日本とは桁違いである。ちなみにアメリカでは『オレオレ詐欺』如き ATM 犯罪は聞いた事がない。大体アメリカ人は日本人ほど家族の結びつきは強力なものではないし、子供も独立心が強く、早くから、『親離れ』をするので、親に対する依存度は低い。したがって、娘、息子とは言え、そんなに簡単に 100 万円、200 万円等と言う大金を銀行から下ろして振込みをするほどバカな親はいないし、大体そんな大金等持っている老人も少ない。

一般にアメリカの親は子供たちが 18 才になる日が待ち遠しい。それは待ちに待った子供の『親離れ』の時だからである。この様な会話はいたるところで聞く。親子の愛情がないのではない。個人主義 (利己主義ではなく) が発達したアメリカでは子供の親からの独立は必然的なイベントでもある。又、反面それは親の『子離れ』の時でもあり、老後生活の準備期間が始まるのである。先進国中イタリアや日本はこれらの社会倫理が異なり、『親離れ』、『子離れ』が出来ないまま、総理大臣になれる御人もいるくらいだ。

日本へ帰国して気付くにはアメリカと異なる事は数多くある。まず気付いた事は食事の時にテーブル上にペーパー・ナプキンがない事である。何か拭くものが欲しいと言うとティッシュボックスを差し出してくれる。アメリカではこのペーパー・ナプキンの種類が豊富で、グロサリーへ行くと 200 枚から 500 枚入りの束がびっしり積まれている。又、レストランではコーヒーは飲み放題。ウェイトレスが次から次ぎへと足してくれる。日本のお茶みたいなものだ。それはマクドナルドでも同じ事。日本ではウェイトレスにチップを渡さなくても良いから気楽で良い。尚、今では何処のレストランでも喫煙出来なくなった。日本ではいたる所で喫煙者がはばをきかせている。アメリカでは禁煙条例はいたる所で、外は自由と思うかとそうではない。建物から距離をおいて喫煙させるので

たまったものではない。アメリカは世界一のタバコ生産国である。しかしこの本拠地でタバコ一箱の値段は約\$6.50（約600円）。日本の倍である。やがて3倍になろうとしている。今やアメリカでは教養の低い者が喫煙するとされている。

近年、太ったブクブクのアメリカ女性がテレビ放送などで見られる様になった。アメリカの親達は子供達が一日も早く独立して親元を離れて欲しいだけが気になり、子供がティーンエイジャーになると全ての面でほったらかしとなる。子供達も好きな事をするようになり、好きなものを食べるようになる。止まりがきかなくなり、食べるアイスクリームの量も凄い。その結果が太ったブクブクのアメリカ女性を作るのである。ステーキの厚さも凄い。アメリカの主婦は味付けが下手で、従って一般に食事の味がおおざっぱである。しかし、このおおざっぱな料理の中に、これは！と云うものがあった。それはアメリカ東北部、メイン州、あるいはカナダ東部産のロブスターだ。これだけは日本にない。ロブスターは水槽から生きているうちに取り出し料理する。アメリカ旅行を試みる人達よ、私はこのロブスターと南部のピカン・パイを食してくる事を勧める。

私はアメリカで車の運転暦43年である。アメリカでは右側運転であったから、日本の運転免許書を取得するのは大変であった。慣れてくると大きな相違はないが、日本はストップサインが逆三角形で信号機と同じくらいの高さにあるのは見づらい。夜間はもっと見づらくなる。アメリカは八角形で大きく地上2メートルくらいの高さであるので遠くからでも見やすい。又、踏み切りでは一時ストップするのはアメリカも日本も同じだが、アメリカにはこの八角形のストップサインが立っている。

交通法規違反中、停止してる通学バス（黄色）を追い越すのが一番厳しい。アメリカでは交差点の信号機が赤でも（左側通行として考えて）右からの自動車の接近がなく、前方から左折してくる自動車がない場合、左折出来る。これは十字街の交通緩和を補助する。歩行者も交通法規を厳守しなければならない。歩行者も罰せられる。死に損する道路歩行者が多いのは日本とは対照的である。運転免許書は州毎に試験を施行し、発行する。州毎に異なる交通法規がある。いかなる交通事故も警察が介入する。警察が事故の原因を判断をし、不可抗力か否かの裁定をする。それに基づいて法規違反のポイントが決まる。警察記録に基づいて双方の保険会社が示談を開始する。保険会社は警察のレポート無しではプロセスを始めない。又警察の裁定ポイントは保険料の騰貴に影響する。警察の裁定に不服があれば交通法規違反裁判の法廷で異議を申し立てれば良い。普通、交通法規違反裁判は夜開かれる。罰金はその地方都市行政の重要な収入源となっている。

小樽に定年帰国して良いと思ったのは市内や近郊に温泉風呂や温泉郷なるリゾートがある事だ。温泉には入れる事によって私は少なくとも5年の寿命が延びたと信じている。アメリカには中西部に火山地帯が多く存在しながら、温泉宿がない。この日本的な医療・レクレーション文化がアメリカにはない。最近はかなり慣れたが、正直言って帰国当時、素っ裸になり、一糸まとわずの姿で、しかも公共の場で、温泉風呂に入るのには抵抗があった。これがアメリカで温泉が企業化しない理由の一つであるかも知れない。

又、帰国して来た時から気をつけている事は、外出する時にはハンカチーフを持参する事である。アメリカ生活の中ではハンカチーフの必要性はなかった。いかなる公共のトイレでもペーパータオルか温風器が備わっていたからである。長崎屋に行くと、ハンカチーフだけを扱っているコーナーすらある。アメリカではデパートメント・ストアに行ってもハンカチーフを求める事は大変だ。日本のハンカチーフは良く出来ていて、フワリと厚い。しかしポケットに入れるとポケットが膨れ上がってしまっって格好悪くなるし、これも考えようである。アメリカではある事情で女性が涙を流す時があるが、その時ハンカチーフを持ち時合せていると都合が良いし、それが何かロマンスに続く事だってありえる。しかし、その為に日本製のハンカチーフを持っていても、いざ鎌倉となると、そのハンカチーフが長い間ポケットに入ったままなのでヨレヨレになっている場合が多い。この為に私は数え切れないほどの機会を逃して来た。

トイレについて語ると、アメリカの一般家庭ではトイレと風呂場、又はトイレとシャワー・ルームは同室にある。トイレだけの場合でも必ず洗面所がついているものである。これを **Half-Bath** と言う。日本では水の節約の為か、水槽タンクの上に手洗い用の蛇口が付いている。これは良案であるが、アメリカでは見た事がなかった。

小樽の街を歩いて見て、アメリカ生活を思い出す事がある。それは 100 円ショップがある事だ。アメリカには **Dollar Store** とか **99¢ Store** と云う名前でのいたるところに存在する。セブン・イレブン、マクドナルド、**Mister Donut**、**KFC** もあり、実に懐かしい。時々アメリカにいるような気持ちになるのは不思議だ。

小樽市もクリスマス・シーズンになると街中 **Illumination** 光景とクリスマス音楽で賑わっている。日本には人口の僅か 1% のクリスチャンしかいない筈なのに、日本がキリスト教国であると錯覚されるのも理解できる。日本では家族に不幸があると、喪中に付き、と称して年賀状の交換はしない。クリスマス・カード交換にそんな事は関係ない。年末の年越しそばとか大晦日大掃除などない。1 月 1 日は普通の旗日。年末休暇、仕事納め、年始め休暇とか、仕事始め等はない。他に行事的な相異と言うと、**White Day** と呼ばれる 3 月 14 日はない。**Valentine Day** は 2 月 14 日だけ。3 月 14 日は日本の企業がこじ付けに作った企業戦略の一つであると思う。1 月 31 日の『愛妻の日』等ない。



2009 年 6 月のアメリカ旅行でワシントン滞在中にメリーランド州都であるアナポリス市に観光で立ち寄った。観光コース外のレストランで活ロブスターがあると言うので注文した。これがお勧めのロブスターだ。



ピカンパイ。ワシントンより南部諸州では大抵のレストランで食する事が出来る。しかし北部、西部は Thanksgiving、クリスマスの季節だけしかお目見えしない